

令和4年度「全国学力・学習状況調査」の結果概要について

宇都宮市立陽東小学校

家庭や地域から「信頼される学校」であるためには、学校の状況や児童の実態を保護者や地域の方々に十分御理解いただく必要があります。その上で、家庭や地域と一体となって児童を育てることが大切であると考えています。

こうした考えから、令和4年度「全国学力・学習状況調査」における本校児童の学力や学習状況の概要について、以下のとおり公表します。

また、調査結果は、学習指導の工夫・改善に役立てることが大切ですので、調査結果の分析、指導の改善策などを併せて掲載します。

【調査の概要】

1 目的

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況等の改善等に役立てる。さらに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2 調査期日

令和4年4月19日(火)

3 調査対象

小学校 第6学年(国語, 算数, 理科, 児童質問紙)

中学校 第3学年(国語, 数学, 理科, 生徒質問紙)

4 本校の参加状況

- | | |
|------|-----|
| ① 国語 | 69人 |
| ② 算数 | 69人 |
| ③ 理科 | 69人 |

5 留意事項

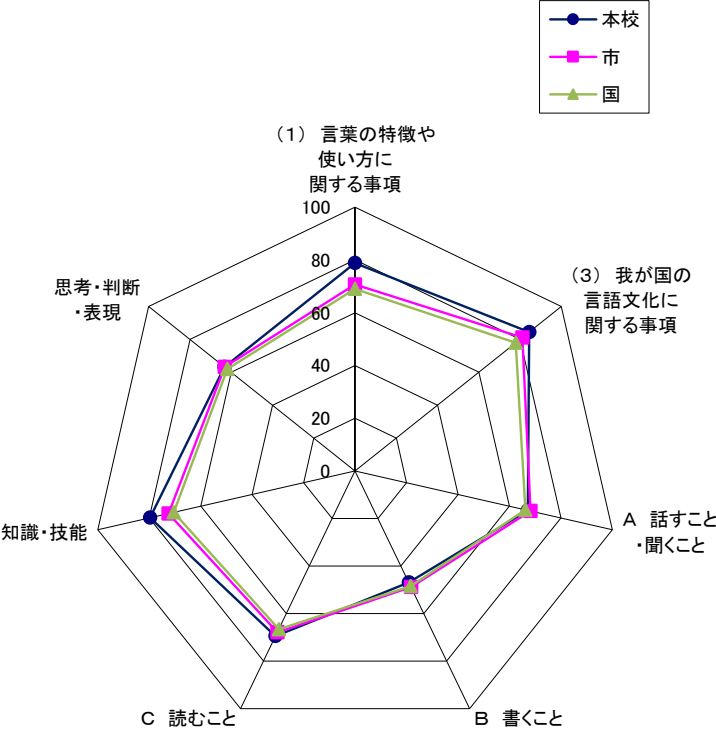
- (1) 本調査は、対象となる学年が限られており、実施教科が国語、算数、理科の3教科のみであることや、必ずしも学習指導要領全体を網羅するものでないことなどから、本調査の結果については、児童が身に付けるべき学力の特定の一部であることに留意することが必要となる。
- (2) 本校の傾向等を分かりやすく示すために分類・区分別の平均正答率などを公表した。
- (3) 平均正答率の数値は調査結果のすべてを表すものではないため、「本年度の状況」、「今後の指導の重点」などの分析を併せて記載した。

宇都宮市立陽東小学校第6学年【国語】分類・区分別正答率

★本年度の国、市と本校の状況

【国語】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域等	(1) 言葉の特徴や使いに関する事項	78.8	70.7	69.0
	(2) 情報の扱いに関する事項			
	(3) 我が国の言語文化に関する事項	84.4	81.1	77.9
	A 話すこと・聞くこと	67.2	68.2	66.2
	B 書くこと	46.9	48.9	48.5
	C 読むこと	69.5	67.9	66.6
観点	知識・技能	79.7	72.5	70.5
	思考・判断・表現	63.3	63.2	62.0
	主体的に学習に取り組む態度			



★指導の工夫と改善

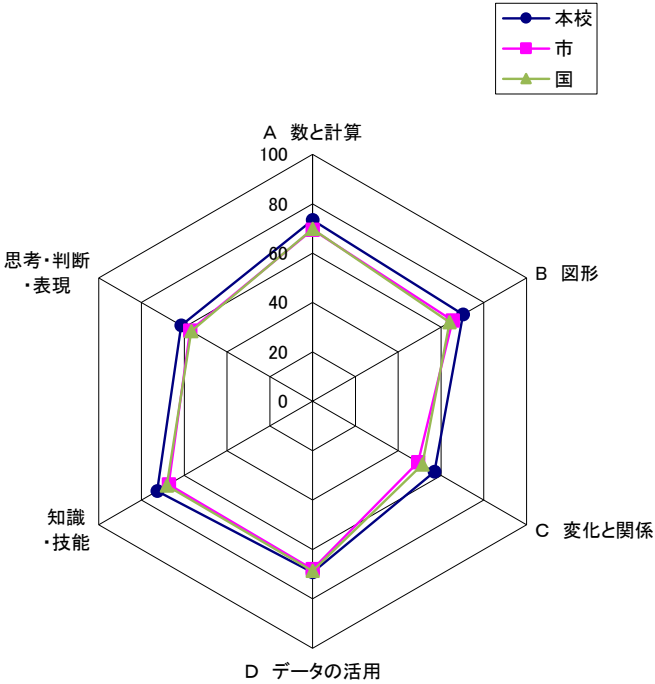
分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
(1) 言語の特徴や 使いに関する事項	○平均正答率は、全国平均を約10ポイント上回っている。 ○言葉のもつ働きについて問われる問題は、全国平均を8ポイント以上上回っており、よく理解できている。 ○漢字を文の中で正しく使う問題の中には、平均正答率が全国平均を11ポイント上回っている問題もあり、よくできている。	○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの ・話し合いなどの場で、言葉のもつ働きを正しく理解して使用することができるよう意識させることで、さらに定着できるようにする。 ・漢字の反復練習だけでなく、熟語や同音異義語などに触れる機会を増やし、幅広く漢字を使えるようにする。
(3) 我が国の言語文化に関する事項	○平均正答率は、全国の平均を上回っている。	・配列に気を配ることはできているので、今後も作文指導などをする際には、文字の大きさ・配列に気を付けて書くように指導していく。
A 話すこと・聞くこと	○平均正答率は、全国の平均を上回っている。 ●話し合いから、立場を明確にして、自分の考えを記述して解答する問題において、無解答率が7.8ポイントと全国平均より4.8ポイント高い。	・一分間スピーチなどで、立場を明確にして分かりやすく自分の意見や考えを話す場を設ける。スピーチ内容に応じて適宜アドバイスをしたり、友達のスピーチの分かりやすいところを探させたりする。 ・ペア学習、グループ学習を積極的に取り入れ、立場や考えを伝え合うような学習を重視する。
B 書くこと	●平均正答率は、全国の平均を1.6ポイント下回っている。 ●特に、文章の構成や書き表し方を答える問題の正答率が、全国の平均を2.9ポイント下回っている。 ○条件に合う文章を書く問題の正答率は全国平均とほぼ同じである。	・文章を書く活動を、日常的に多く取り入れる。 ・段落の構成を考えたり、目的や条件に応じて表現したりする活動を充実させていく。
C 読むこと	○平均正答率は、全国の平均を上回っている。 ○文章を読み解く力が高く、特に表現の効果を考える問題の平均正答率は、全国の平均を11ポイント上回っている。	・読書活動をさらに推進していく。

宇都宮市立陽東小学校第6学年【算数】分類・区分別正答率

★本年度の国、市と本校の状況

【算数】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域	A 数と計算	73.4	69.5	69.8
	B 図形	70.3	65.4	64.0
	C 測定			
	C 変化と関係	57.0	49.3	51.3
	D データの活用	69.3	68.0	68.7
観点	知識・技能	72.7	67.3	68.2
	思考・判断・表現	61.4	57.3	56.7
	主体的に学習に取り組む態度			



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

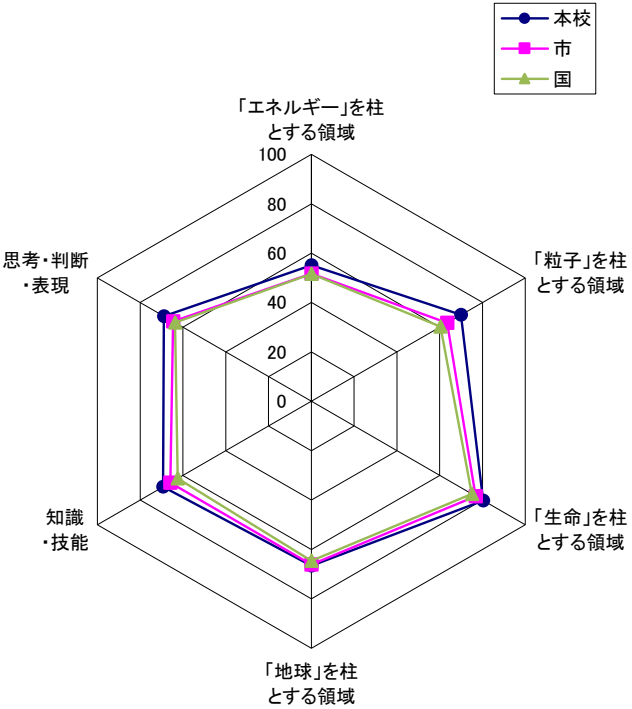
分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
A 数と計算	○平均正答率は、全国の平均を上回っているものが多い。 ○基礎的な問題では、全国の平均正答率を約10ポイント上回るものもあった。 ●示された場面において目的にあった数の処理の仕方を考察する問題の正答率が32.8%と低く、全国の正答率を2ポイント下回った。 ●示された場面を解釈して記述で答える問題の無解答率が9.4%で、全国の無解答率より4.2ポイント高い。	・それぞれの児童の習熟度の差を考慮した個別指導を充実させ、基礎学力を定着させる。 ・様々な場面を想定した問題や様々な形式の問題に取り組みさせることで、その場面や形式に適した計算力を発揮できるようにしていく。 ・式とは、解答を導く手段ではなく、文字や数を演算記号で結び付けて表したものであることを理解し、それらを自在に使えるようにさせて、中学校での数学に結び付けていく。
B 図形	○平均正答率は、全国の正答率を上回るものが多い。 ○プログラミングの問題は、全国の正答率を20ポイント上回るものがあった。5年生の算数でプログラミングを実際にやった経験が、正答率に反映されている。 ●図形を構成する要素に着目して考察する問題の正答率は64.1%で、全国の平均を1.4ポイント下回った。 ●全体的な正答率が高い一方、プログラミングの問題の無解答率は3～6%で、全国の無解答率を上回っている。	・二等辺三角形、正三角形、平行四辺形、ひし形など様々な三角形、四角形の作図を繰り返し指導することで、技能の定着を図るとともに、図形を構成する要素について着目できるようにする。 ・プログラミング学習が楽しく展開できるような教具の準備や工夫をし、体験的に学ぶ機会をより増やしていく。
C 変化と関係	○平均正答率は、全国の正答率を上回るものが多い。 ○百分率で表された割合と基準量から、比較量を求める問題の正答率は、全国の平均を約20ポイント上回っている。 ●数量が変わっても割合は変わらないことを答える問題の正答率は21.9%で、全国とほぼ同等であるが、低い正答率に留まった。	・様々な場面や形式を想定した問題に取り組みさせることで、その場面や形式を考えて変化と関係を捉えられるようにする。 ・百分率、分数など既習事項を復習し、それらと比例の関係とを関連付けて考えられるようにしていく。
D データの活用	○平均正答率は全国の正答率とほぼ同等である。 ●表の意味を理解し数を求める問題の無解答率が4.7%で、全国の無回答率の約2倍だった。	・グラフや表を読み取る学習だけでなく、そこから読み取れることを言葉で表現し、それらを基に意見を交流させる学習を算数でも取り組んでいく。 ・社会科や総合的な学習の時間でも、データの活用を意識した授業を行っていく。

宇都宮市立陽東小学校第6学年【理科】分類・区分別正答率

★本年度の国、市と本校の状況

【理科】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域	「エネルギー」を柱とする領域	55.1	51.7	51.6
	「粒子」を柱とする領域	70.0	63.5	60.4
	「生命」を柱とする領域	80.3	76.8	75.0
	「地球」を柱とする領域	66.6	66.1	64.6
観点	知識・技能	69.3	65.9	62.5
	思考・判断・表現	68.9	64.6	63.7
	主体的に学習に取り組む態度			



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
「エネルギー」を柱とする領域	○●平均正答率は、全国の平均を上回るものが多かったが、下回るものもあった。 ○●問題に対するまとめから、その根拠を実験の結果を基にして書く問題では、全国の平均を8.7ポイント上回っていたが、無回答率が18.8%で全国の平均よりも7.6ポイント高かった。 ●鏡ではね返した日光の位置が変化していることを基に、新たな実験手順を追加する問題の平均正答率は65.6%で、県の平均よりも3.3ポイント下回った。	・実験の結果を基に自分の実験方法が適切であったかを検討して、改善点を考えられるようにする。 ・既習のいくつかの単元を組み合わせで考えられるよう、普段から意識させる。
「粒子」を柱とする領域	○平均正答率は、県の平均を上回っている。 ○実験器具の名称を答える問題の正答率は90.6%で、県の平均を19.1ポイント上回っていた。 ●凍った水溶液について、試してみたいことを基に見出された問題を書く設問の正答率が45.3%で、県の平均を4.5ポイント上回ったものの無回答率が9.4%で、県の無回答率を1.7ポイント上回った。	・実験器具の名称や使い方については、引き続き丁寧に指導していく。 ・自分の考えをもち、記述することができるよう、普段から自分の言葉でまとめる習慣をつけさせる。
「生命」を柱とする領域	○育ち方と主な食べ物の二次元の表から気付いたことを基に、昆虫の食べ物に関する問題を見出して選ぶ問題の正答率は78.1%で、全国の平均を12.6ポイント上回った。 ●昆虫の体のつくりの特徴を基に、ナナホシテントウが昆虫であることを示すための図を選ぶ問題の正答率が68.8%で、全国の平均を4.3ポイント下回った。	・知識をより深く理解できるようにするために、予想や仮説を基に、様々な昆虫の体について関連付ける場面を設定していく。 ・実物を観察する機会を設け、様々な角度から観察できるよう、観察の視点を明確にする指導をしていく。
「地球」を柱とする領域	○平均正答率は、全国の平均をやや上回っている。 ○夜の気温の変化について、他者の予想を基に、記録の結果を表したグラフを見通して選ぶ問題の正答率は71.9%で、全国の平均を7.4ポイント上回った。 ●冬の数日間の天気と気温の変化のグラフを見て結果を分析する問題で、グラフのどの部分を見るとよいかを答える設問の正答率は45.3%で、全国の平均と同等であるが、無回答率が10.9%で、全国よりも高かった。	・観察や実験などで得た結果から結論を導き出すために必要な数量や変化の特徴を見付け、自分の考えをもち、話し合う場を意識的に設定する。

宇都宮市立陽東小学校 第6学年 児童質問紙

★傾向と今後の指導上の工夫

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

○質問(6)「自分には、よいところがあると思いますか。(本校肯定的回答81/2%)」、質問(10)「自分でやると決めたことは、やり遂げるようにしていますか。(本校肯定回答89.8%)」に対して、いずれも肯定的な回答の平均が、全国の平均を上回っている。これは、各教科、児童会活動、学校行事ごとにめあてを明確化し、活動後の振り返りを通して、自分の成長が分かる場を設けたことで、自信につながり自己有用感や自主・自律につながったと考えられる。

○質問(13)「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか。(本校肯定的回答100%)」、質問(18)「友達と協力するのは楽しいと思いますか。(本校肯定的回答94.2%)」、についても、全国の平均を上回っている。このことから、授業だけでなく運動会やドッジボール大会などを通して、仲間と協働的な学びができる楽しさや、お互いの違いを認め合い補い合いながら一体感を味わう体験ができ、児童にとって学校が安心できる場になっており、それが学習の成果にも大きく寄与していると考えられる。

○質問(36)「学習の中でPC・タブレットなどのICT機器を使うのは勉強の役に立つと思いますか。(本校肯定的回答98.6%)」と高い割合で肯定的な回答をしている。校内での、日常的な活用の効果が表れていると考えられる。

○質問(45)「総合的な学習の時間では、自分で課題を立てて情報を集め整理して、調べたことを発表するなどの学習活動に取り組んでいますか。(本校肯定的回答85.5%)」では、全国の肯定的回答の平均値を12.8ポイント上回っている。一人一人が、主体的に学ぶ意欲をもって、学習に取り組んでいることが分かる。

○質問(52)(56)「国語(算数)の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思いますか」また質問(50)(54)「国語(算数)の勉強は大切だと思いますか。」では、本校の肯定的回答はどちらも100%である。児童が必要をもって学習に取り組んでいることが分かる。

●質問(23)「学校の授業時間以外に、普段(月曜日から金曜日)、1日当たりどれくらいの時間、読書を読みますか。(教科書や参考書、漫画や雑誌は除く)(1日に30分以上読書をする本校児童27.4%)」では、全国の平均より9ポイント下回っている。そのため、朝の学習などで読書の時間を確保したり、読書カードを利用して自宅でも読書するように促していきたい。

宇都宮市立陽東小学校 (第6学年) 学力向上に向けた学校全体での取組

★学校全体で、重点を置いて取り組んでいること

重点的な取組	取組の具体的な内容	取組に関わる調査結果
・ICT活用による主体的に課題解決できる児童の育成	・Googleツールを活用した協働的な学びの実践。学習に対して困り感のある児童に対する個別支援や様々な授業における、目的に応じた学習方法や学習環境の工夫。	・「学習の中でPC・タブレットなどのICT機器を使うのは勉強の役に立つと思いますか。」に肯定的に回答した児童の割合は98.6%と高く、全国の平均を4.2ポイント上回った。
・家庭学習の習慣化に向けた取り組み	・3～6年生では宿題のほかに自主学習ノートを利用した学習に取り組ませ、定期的に提出するよう指導している。	・「家で自分で計画を立てて勉強をしていますか(学校の授業の予習や復習を含む)」に肯定的に回答した児童の割合は78.2%で、全国の平均を7.1ポイント上回った。

★学校全体で、今後新たに重点を置いて取り組むこと

調査結果等に見られた課題	重点的な取組	取組の具体的な内容
・国語の「書く」に関する問題の正答率が低い。 ・各教科とも記述問題に対する無回答率が、やや高い。	・言語活動の充実。 ・個別に対応した既習学習の丁寧な復習。	・文章を書く活動を、日常的に多く取り入れる。 ・自分自身の考えをもち、話し合う場を意識的に設定する。 ・朝の学習の時間を生かした個別学習の充実。 ・読書活動の推進。